

# Desert Wind (No. 4)

Las Vegas Japanese Community Church

MARCH 2007

『わたしは荒野に道を設け、さばくに川を流れさせる』(イザヤ 43:19)

編集：平山末樹

## 『大き過ぎる神様の犠牲』

(LVJCC 牧師：鶴田健次)

殺人の罪で終身刑になれば、それは一生を棒に振る絶望的なことです。しかし私たちが原罪という罪の問題解決なしに永遠の滅びを招くことは、終身刑どころの騒ぎではありません。そんな私たちが救い主キリストを信じる信仰によって永遠の命を頂けるといふのは、あまりにも分が良すぎる話です。しかし、この分の良い話がどれほど有難いものかは、そのために払われた神の犠牲を抜きに語れるものではありません。

病院の待合室に二組の家族の姿がありました。片方の家族は二十歳前後の若者たち5人とその母親で、その若者たちは革ジャンを着て、髪の毛を染め、どことなく荒々しい雰囲気がありました。部屋の反対側には、品の良い男性が白衣を着て妻と娘と一緒に座っていました。彼らの顔は暗く沈み、深い悲しみの中にあるようでした。そこで一人の女性新聞記者が、何やら特ダネになりそうなことをその男性から聞きながらメモを取っていました。

一組目の家族の若者たちは、「ゲシュタポ」と呼ばれるギャングの一味でした。彼らの中には一つの慣わしがあり、新しいメンバーになるには、走る車の中から誰かをピストルで撃って殺し、“男”であることを証明しなければなりません。その「ゲシュタポ」のメンバーである

兄弟たちにはリックという心臓病を患っている弟がいて、心臓移植だけが助かる道でした。しかし彼らにはお金も保険もありません。それに心臓の提供者もなく、リックが助かる見込みはありませんでした。ところが、夕方になって突然、心臓の提供が可能になったという連絡があり病院に呼び出されたのです。

もう一方の男性は、有名な心臓病の専門医でした。彼は、緊急の心臓移植のために病院に呼ばれ、病院に駆け込んで来て初めて、死んだばかりの心臓提供者が自分の息子であることを知ったのです。しかも、これが新聞記者にとって特ダネとしての価値があったのは、心臓を提供する相手が、この男性医師の息子を殺したギャングの弟だったからです。そこで、この一部始終が分かった今、果たしてこの男性医師が自分の息子の心臓を息子に殺した犯人の弟に提供するかどうかが問題でした。この医師と彼の家族はクリスチャンで、このいきさつが分かってしばらく病院のチャペルで祈っていました。もし彼が息子の心臓をこのギャングに与えるとしても、手術はどうするのがもう一つの問題でした。一体どこに、自分の息子の心臓を息子に殺した犯人の弟に与える者がいるのでしょうか。また誰がその父親にその移植手術を頼めるでしょうか。待合室の緊張はどんどん高まってきました。たとえその医師が息子の心臓をそのギャングに与え、手術をするにしても、彼らには高額の医者代を払うことなど出来ないのです。

待合室の緊張が頂点に達した時、その男性医師は、リックの母親を自分の方へ呼んで言いました。「私が手術をしましょう。息子の心臓をあなたの息子さんに与えましょう。医者代も要りません。なぜなら、神様も私に同じ事をして下さったから」。待合室に歓声がわきあがり、彼らは大声で「リックに新しい心臓が与えられた！しかもタダだ！おい信じられるか！タダだぜ！」と叫びました。その医師は、そこにかがみ込み、体を震わせながら泣きました。警察官は大喜びをしているギャング達に向かって、「確かに君たちにはタダだが、この人にはタダではない」と言いました。彼は、息子の命という大きな代価を払い、しかも、その息子の心臓を息子の命を奪った者に与えたのです。

十字架の恵みとはこの事を意味します。神の恵みを本当に理解するためには、恵みは確かにタダでも、そのためにどれだけ大きな『神の犠牲』が払われたかを知らなければなりません。神は、無情な群衆たちに、大切な独り子イエス・キリストの命を奪われ、いわば高価で罪も汚れもないキリストの心臓を、キリストを殺した者たちの魂に移植されたのです。だから、この偉大な医師である神が、この移植を可能にするために、どれ程までの代価を払われたのかが分かなければ、神の恵みを理解することなど出来ないのです。あなたはこの事を本当にご存知ですか？



## 証

### ソレンティーノ・ケイ

ハレルヤ！主の御名を褒め称えます！神様を信じる前の私は、どんな宗教に対しても興味がありませんでした。私にとっては全く別世界のものでした。それが、なぜクリスチャンになったのか？これは、本当に神業？と言うしかありません。

ハワイからラスベガスへと引越してきて、ラスベガスの生活は本当に楽しく、お酒を飲み、酔っ払って朝までクラブで踊っていることがよくありました。しかし、ラスベガスに来たといってもギャンブルには1年以上手をつけませんでした。まさか自分がギャンブルにはまるとは夢にも思いませんでした。

ギャンブルを始めてからは、寝てもあけてもギャンブルずくめ、私はどんどんギャンブルにはまってしまい、お金の負けも込みだして、どうしたらお金を取り戻すことができるのだろう、そんな事ばかり朝から晩まで考えてうちに鬱病にかかってしまいました。そして、ドクターに薬をもらって飲まなければ人とも話することができないくらいに鬱病がひどくなってしまいました。それでもギャンブルをやめることができずにいました。そんな時に会ったのが今の主人です。お互いにギャンブルをやめようかとがんばっていたのもつかの間、すぐにまたギャンブルをやり始めて、負けた時にすごく大きな喧嘩になり、その回数がだんだんと増え始めました。そんな時にみどりさんによって教会に導かれ、初めて教会に第一歩を踏み入れたわけです。

それから、約3ヶ月で神様を信じ洗礼を受けクリスチャンとなりました。神様を信じてから私の人生は全く今までの人生と比べて違うものとなりました。

た。聖書を知ればしるほど、どれほど神様を信じて生きる人生が素晴らしいか！そして、そんな素晴らしい神様のことを人々に言わずにはいれなくなりました。それから、私の心の中に色々な思いが与えられました。その中の一つは、今の主人との結婚の決意でした。そして、もう一つは家族との和解でした。私は、ほとんど日本の家族と連絡を取り合っていませんでした。それではいけないという思いが心に沸いてきて日本の家族に電話をしたり手紙を書いたりして、イエス様がどれほど素晴らしい神様であるか、福音を述べ伝え続けました。それと同時に7年間会っていなかった父との再会を果たす事ができました。

そんなクリスチャンになりたての時に、教会で早天祈祷会が始まり、私は欠かさずその早天祈祷会に出席してみなさんといっしょに祈っていました。特にその時、まだ私は母に対してわだかまりを持っていましたので、その事を祈っていました。みなさんも一生懸命祈ってくださいました。その早天祈祷会が始まってから約3ヶ月後、母が私たちの結婚式のために日本からラスベガスに来て下さいました。短い滞在中ではありましたが母は、イエス様を自分の罪のために十字架の上で死んで下さった救い主だと信じることができ、洗礼を受けクリスチャンとなりました。私は思いました。神様は、人間の想像をはるかに超えた事をなさる素晴らしいお方であると。私たちが、早天祈祷会で願っていたこと以上の事をなさるお方、すばらしい神様！その神様が、私の信じるイエス・キリストである事が本当に素晴らしい！心よりそう思い、今また、神様を褒め称えます！ハレルヤ！

## 案内・ニュース

・2月13日(火)高崎力雄兄が天に召され、24日(土)に告別式が持たれました。長年の求道生活の後、病床洗礼を受けられての凱旋は感動と感謝に満ち溢れる恵みでした。

・2月25日(日)篠田リリアン宣教師をお招きし、素晴らしいメッセージを取り継いでいただきました。

・2月27日(火)貴保子 Poquette 姉と Nicholas Trimboli 兄の結婚式が執り行われました。お二人の新しい結婚生活に主の豊かな祝福と導きがありますように。

## DREAMS COME TRUE

☆2008年までに大きな会堂が与えられるように  
☆敬老ホーム設立のために  
☆幼稚園設立のために

